

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	疫 病	灰 色 か び 病	斑 点 病	白 絹 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	苗 立 枯 病	黒 枯 病	炭 疽 病	斑 点 細 菌 病
アグロケア水	BM2		1	-		◎				◎		◎		
インプレッションクリ ア水	BM2		*f	-								◎		
ボトピカ水	BM2		*f	-						◎				
トップジンM水	1		1	3								◎		
ベンレート水	1		1	3			◎			◎			◎	
アフェットFL	7		1	3		◎	◎	◎		◎		◎		
カンタスDF	7		1	3		◎						◎		
パレード20FL	7		1	3		◎				◎		◎		
アミスター20FL	11		1	4		◎								
スクレアFL	11		1	3					◎					◎
ストロビーFL	11		1	3						◎		◎		
ライメイFL	21		1	3	◎									
ランマンFL	21		1	4	◎									
フルピカFL	9		1	4						◎				
セイビアーFL20	12		1	3		◎								◎
スマレックス水	2		1	5		◎			◎			◎		
ロブラール水	2		1	4		◎			◎					
リゾレックス水	14		*c	1							®			
			1	2				◎						
リゾレックス粉	14		*d	1							®			
サブロール乳	3		1	3						◎				
スコア顆水	3		1	3						◎				
トリフミン水	3		1	5						◎				
ラリー水	3		1	4			◎			◎				
ルビゲン水	3		1	4						◎				
ピクシオDF	17		1	3		◎			◎					
レーバスFL	40		1	2	◎									
オリゼメート粒	P2		*e	1			◎			◎				

ノアール

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	疫 病	灰 色 か び 病	斑 点 病	白 絹 病	菌 核 病	う ど ん こ 病	苗 立 枯 病	黒 枯 病	炭 疽 病	斑 点 細 菌 病
ピシロックFL	U17		1	3	◎									
サンヨール乳	M1		1	4						◎				
オーソサイド水80	M4		*a	2							◎			
ダコニール1000FL	M5		1	3			◎			◎		◎	◎	
パルミノFL	M10		1	3						◎				
モレストン水	M10		1	3						◎				
ユニフォーム粒	4・11		1	3	◎									
シグナムWDG	7・11		1	2		◎	◎			◎		◎	◎	
ベジセイバーFL	7・M5		1	3		◎	◎			◎		◎	◎	
アミスターオブティFL	11・M5		1	3	◎	◎	◎			◎		◎	◎	
ドーシャスFL	21・M5		1	3	◎		◎							
カスミンボルドー水	24・M1		1	5			◎			◎				◎
パンチョTF顆水	3・U6		1	2						◎				

*1: ピーマンとシシトウは使用できる農薬が異なる。

*a: 播種後～2～3葉期まで *c: 播種時 *d: 播種前

*e: 定植時 *f: 発病前～発病初期まで ⑧: リゾクトニア菌による病害

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	カ メ ム シ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	タ バ コ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ ラ	ハ ダ ニ 類	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ
スピノエース顆水	5		1	2					◎			オ							
コロマイト乳	6		1	2			◎											◎◎	
アドバンテージ粒	1A	劇	*b	1					ナ										
ガゼット粒	1A	劇	*b	1		◎			ナ										
バイデートL粒	1A	劇	*i *d	1 1		◎			ナ										◎
オルトラン粒	1B		*a	1		◎													
ダイアジノン粒5	1B		*c *f	2 3									◎		◎				
ネマキック粒	1B		*d	1											◎				◎
ネマトリンエース粒	1B		*d	1															◎
マラソン乳	1B		1	5		◎												◎	
ラグビーMC粒	1B		*d	1															◎
アードント水	3A		1	2		◎			カ									◎	
アグロスリン水	3A	劇	1	5		◎								タ					
アグロスリン乳	3A	劇	1	5		◎													
アデオン乳	3A		1	5		◎			◎				タ						
ガードベイトA粒	3A		*L	5									◎						
トレボン乳	3A		1	3		◎													
ロディー乳	3A	劇	1	3		◎												◎	
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎		◎	ナ		◎								
アクタラ粒5	4A		*a	1		◎			ナ										
アドマイヤー顆水	4A	劇	1	2	施	◎			◎										
アドマイヤー1粒	4A		*a *h	1		◎			◎										
アルバリン顆溶	4A		1	2		◎◎			◎◎										
アルバリン粒	4A		*i *a	1		◎◎			◎										
スタークル粒			*j	2		◎													
ダントツ粒	4A		*a *h *n	1 2		◎ ◎ ◎													
ダントツ溶	4A		1	2		◎◎			ナ◎										
バリアード顆水	4A	劇	1	3		◎													
ベストガード溶	4A		1	3		◎◎			ナ										
ベストガード粒	4A		*i *a	1		◎◎ ◎◎			ナ										
モスピラン顆溶	4A	劇	1	2		◎◎			◎										
モスピラン粒	4A		*k *a	1		◎◎ ◎													
トランスフォームFL	4C		1	2		◎◎													
ディアナSC	5		1	2			◎		◎			オ	◎						
アグリメック乳	6	劇	1	3		◎			◎									◎	
アニキ乳	6		1	3		◎						オ	◎					◎	
アフーム乳	6		1	2		◎						オ							
コルト顆水	9B		1	2		◎◎													
チェス顆水	9B		1	3		◎													
ニッソラン水	10A		1	2														◎	
コテツFL	13	劇	1	2					ミ			オ						◎	
アタブロン乳	15		1	3					ナ			オ	◎						
カウンター乳	15		1	4								オ							

ピーマン

ピーマン*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類コ ード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	コ ナ カ イ ガ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	カ メ ム シ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ 類	タ バ コ ガ ガ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	ケ ラ 類	ハ ダ ニ 類	チ ヤ ノ ホ コ リ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類
カスケード乳	15		1	3															
マッチ乳	15		1	4															
ファルコンFL	18		1	2										◎					
マトリックFL	18		1	3															
カネマイトFL	20B		1	1													◎	◎	
マイトコーネFL	20D		1	1													◎		
サンマイトFL	21A	劇	1	2			◎											◎	
ダニトロンFL	21A		1	3														◎	
ハチハチ乳	21A	劇	1	1			◎		◎										◎
トルネードエースDF	22A		1	2										オ					
アクセルFL	22B		1	3										オ					
モベントFL	23		*g 1	1 3		灌 ◎	灌 ◎		灌 ◎									灌 ◎	灌 ◎
スターマイトFL	25A		1	1														◎	◎
ダニサラバFL	25A		1	2														◎	
フェニックス顆水	28		1	2									オ						
ブリロッソ粒オメガ	28		*m 1	1		◎	◎		◎										
ブレバゾンFL 5	28		*g 1	1 2			灌								灌				
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎		◎				オ		◎				
ベリマークSC	28		*g 1	1		灌	灌		灌						灌				
ヨーバルFL	28		*g 1	1 3		◎	◎						オ						
ウララDF	29		1	2		◎													
グレースシア乳	30		1	2			◎		◎				オ					◎	◎
ダニオーテFL	33		1	2														◎	
ファインセーブFL	34	劇	1	3			バ		◎										
バルミノFL	UN		1	3			◎											◎	
ブレオFL	UN		1	2					◎				◎						
モレストン水	UN		1	3														◎	
サンヨール乳	-		1	4		◎													
アフアームエクセラ顆水	6・15		1	2									オ		◎				

*1:ピーマンとシシトウは使用できる農薬が異なる。

*a:定植時 *b:育苗期後半又は定植時 *c:播種時又は定植時 *d:定植前

*e:鉢上げ時 *f:収穫開始10日前まで *g:育苗期後半～定植当日 *h:育苗期後半

*i:育苗期 *j:生育期(但し収穫前日まで) *k:定植前日～定植当日 *l:生育初期

*m:育苗期後半～定植時 *n:定植後(但し収穫前日まで)

オ:オオタバコガ カ:ミカンキイロアザミウマ タ:タバコガ

ナ:ミナミキイロアザミウマ バ:タバココナジラミ類

ミ:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ

灌:灌注処理での登録 施:施設栽培

ピーマン*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
疫病	定植前	1. 圃場の排水をはかる。 2. 発病のおそれがあるところは土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。	△定植後～定植後3週間までの使用は避ける。
	生育期	・発病初期に次の薬剤のいずれかを施用する。 ピシロックフロアブル 1000倍 ランマンフロアブル 2000倍 ユニフォーム粒剤△ 3g/株	
灰色かび病	生育期	1. 施設・トンネル内は多湿にならないように注意する。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 カンタスドライフロアブル● 1000～1500倍 ロブラール水和剤● 1000～1500倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 3000倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 トリフミン水和剤● 3000～5000倍 パンチョTF顆粒水和剤● 2000倍	●DMI剤は耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
白絹病	生育期	・発生を認めたら初期に次の薬剤を土壌灌注する。 リゾレックス水和剤 1000倍 1ℓ/株	
モザイク病(CMV)		・トマトモザイク病に準ずる。	シルバーマルチ(ムシコン等)によるマルチ栽培は有効である。
黄化えそ病(TSWV)	育苗期～生育期	・トマト黄化えそ病に準ずる。	
斑点細菌病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 Zボルドー(水)* 500倍	気温20℃以上の時発生する。 ピーマン、トウガラシのほかトマトにも発生する。 *野菜類での登録

*1: ピーマンとシントウは使用できる農薬が異なる。

ピーマン*¹ (野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを植穴に施用し、土とよく混ぜる。 アドマイヤー1粒剤 1～2g/株 ダントツ粒剤 1g/株 ベストガード粒剤 1～2g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍 ダントツ水溶剤 2000～4000倍 マラソン乳剤 2000～3000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
タバコガ	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000倍 ブレオフロアブル# 1000倍	# タバコガ類での登録
オオタバコガ	生育期	・発生が多いときは次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	*野菜類での登録
ネキリムシ類	播種時又は定植時	・次の薬剤を全面又は条作に施用し、土壌混和する。 ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10a	発生量は多くないので、被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
ネコブセンチュウ	定植前	・次の薬剤のいずれかを全面土壌混和する。 ネマトリンエース粒剤 15～20kg/10a ラグビーMC粒剤 20kg/10a	

*1: ピーマンとシントウは使用できる農薬が異なる。